

3月のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3 ひな祭り	4 卒園遠足	5	6	7
8	9	10 けやき お祝い膳	11	12	13 卒園式	14
15 乳児健診	16	17	18	19	20 春分の日	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

保健師より

今年度も残すところあと1か月となりました。「新しい感染症」「新しい生活様式」などたくさん「新しい」が登場しましたね。この1年で「新しい」に慣れつつも、早くこの状況が収束し、子どもたちと制限なく思い切り触れ合い、遊べる日が戻ってくることを願わずにはられません。3月は暖かい日があったかと思えば、急に寒さが戻る日もあり、体調を崩しやすい気候です。気温の変化に対応するために衣服で調節し、睡眠をしっかり取って「新しい春」に向けて元気な体作りをしていきましょう。新年度も良い形でスタートできるよう、この3月も子どもたちの健康状態に気をつけていきたいと思います。

○2月の感染症
嘔吐・下痢：1名
溶連菌感染症：2名

○0歳児乳児健診 3/15 (月) 9時30分～
つぼみぐみのみなさんは、当日はなるべくお休み
されないようお願いいたします。

March 2021

2021. 3. 1 発行

small alley post

東香会

保育理念 『いきいき』

合言葉 『すべて子ども中心』

基本保育方針

『私たちは、今ここで「こどもたちのたからもの」を大切にします』

『地域で安心して子育てができるように！』

『子どもの成長、発達に寄与する人はすべて保育者』

3月の保育主題

『ふくらむ心に 夢の花』

1年のまとめ 次年度への助走

園長コラム「プレッシャーと赤ちゃん」

とうとう3月がやってきました。今年度最後の月ですね。2020年は様々な常識が覆された年でしたね。個人的にも2020年は大きく動いた年です。まずは園長という立場となったことです。今まで保育者としてクラスに入り、子どもたちともずっと近い関係性で関わってきました。1年を子どもたちとどのように過ごすのか、環境づくりから毎月の計画づくり、季節行事や祭典などと様々な準備をしてきました。とにかく頭をフル回転させながら、日々を送ってきました。今年は例年よりも、より考えることが増えた気がします。

そんなある日、なぜこんなに忙しいのだろう…何も考えずにずっとぼーっとできたらどんなに幸せだろう、と思いました。皆さんもそんな瞬間が1度はあるはず！（全く無い方もいるかもしれませんが）。しかし、やるべきことがなくなったら、どうなると思いますか…？

私は仕事を全くしていない時期がありました。イタリアから帰国後、次の仕事まで少し休もうと決意したときです。家でぼーっとする日が1日、2日と過ぎ2週間が経つと、むしろ“何かやらねば”、と「やること」、「やるべきこと」が欲しくなったのです。その時のプレッシャーはこれまでで1番のストレスだったと思います。最初は何のプレッシャーもないぼーっとする時間が心地よくて幸せだったのに…そしてまた考えたのです。ただただ自分の好きなことをつきつめて生きている人はいるのだろうか、と。そんな人がいたら天才だなと思いました。他人による外部の情報を全て遮断し、何にもプレッシャーを受けずに、とにかく自分の好きなことをして生きる。作曲家？画家？しかし、その人たちも周りに人がいて、それを評価する人によって生活が成り立つのか？ただただ音楽や描画を楽しんでいる人はいるのか？オーディエンスがいるから楽しいのか？誰からかの評価を求めずに好きなことをやっている人はいるのか？—そんなことで頭をグルグルさせて休日を過ごしました。そして、改めて子どもの存在に惹かれました。

赤ちゃんは自分に手にしたものをどこかにぶつけて音を出して遊びますよね。それはただただ面白いからやっています。誰かに聞かせるためではなく、自分が満足するまで叩きます。それがたとえ大人にとって雑音だったとしても。これってすごいことだなと思うのです。ただ、赤ちゃんは1人では生きていけないので、大人と同じ状況ではないですが。休みの日に何考えてるんだ、暇だなと思うかもしれませんね。私はこんなことをただ頭の中で巡らせて、今、子どもたちと関わっていることに幸せを感じ、自分の置かれている立場を肯定的に捉えています。新型コロナウイルスによって大きく変わった世界が何年続き、また違う生活が日常になるかわかりませんが、何事も考え方次第だと思います。

渋谷東しぜんの国こども園 園長
名古屋 彩佳

保育エピソード 「木登り」

児童遊園地の砂場で遊び始めると、Tくんがあるものを見つけた。ミニカーだ。そのミニカーは、誰のものかもわからない。藤の木の枝の上に挟まるようにしておいてあった。それを見つけたTくんは、それが欲しくなったのだ。

迷わず藤の木に登りだした。うまく足をかけバランスをとって上へと上がって行く。足をかけられない場所まで行き、グッと体の重さがかかった。すると、「重たい…」と言って進まなくなった。少しそのまま頑張っていたが、泣き出しそうになる。「降りる？」と声をかけると今度はどのようにして降りて良いのかわからないというように泣きそうな声を出していた。励ましながら様子を見る。少しふらつきながらも登ったときと同じように慎重に足を動かし、バランスを取りながら降りていった。地面に足がついた時に「出来たねー！」と声をかけると嬉しそうに「出来たねー！」と言って喜んでいた。

その後もミニカーは気になっていたようだが、木登りの面白さを知ったようで、自分から木に登り始めた。なかなか上に行くのは難しいが、自分でやってみたからこそ、出来そう、出来た、出来そう、難しい、などの体験を繰り返して自信と行動力に繋がって行く。また今度木を見た時にどんな反応を示すのか。楽しみである。

今月のsmall alley play ground ピックアップスポット

讃岐うどん 麺喜やしま 渋谷円山町

東京都渋谷区円山町10-13 サンライズ渋谷 1F



昔、渋谷のタワーレコードで働いていたのですが、当時スタッフ間で特に人気だった近隣の飲食店がこの「讃岐うどん 麺喜やしま」でした。当時は現在の店舗とは場所が異なり、渋谷宇田川町の雑居ビルの地下一階にあったのですが、当時の宇田川町と言えば数多くのレコード屋が立ち並び、特に日本のヒップホップ・クラブカルチャーの隆盛に多大な影響を与えた場所でありました。そんな立地も相まって、やしまの店内には一般のお客さんに混じり、有名なラッパーやDJ達が決して広くはない店内で肩を並べてうどんをすすする光景を日常的に目にし、何ともほっこりとした気持ちになっていたことを思い出します。現在は宇田川町からは場所を移し、少し離れた渋谷円山町で営業中。肝心の味のほうですが、個人的なオススメでいつも頼むのはしいたけうどんと穴子の天ぷら単品です。

さっぱりだけど出汁のきいた透明色のおつゆと甘く煮たしいたけの細切りがベストマッチ。麺は讃岐うどんなので太めですがコシは強くなく、つるつるもちもちした食感で個人的に非常に好きなやつです。少し平打ち気味なものポイント高し。天ぷらは衣の量が多いのですが、これが嫌な重さなくサクサクで、さっぱりめのうどんとうまく調和します。店内には何故か昭和レトロ(じゃないものもありますが)な雑貨が所狭しと飾られ(清潔感はあります)、メニューもミートソースうどんのようなニューウェーブ系もありますので、お子様にも楽しんでいただけるかと思います。